

## 代表の言葉

本日は、私達のために素晴らしい式典を開催していただき、誠にありがとうございます。牧之原市が市制施行から 20 年という節目の年に、私たちも今日、ここ牧之原で大人としての門出を迎えられたことに深い喜びを感じています。

そしてなにより、かつて同じ学び舎で共に過ごした仲間達に、こうして笑顔で再会できた嬉しさと胸がいっぱいです。

20 年間を振り返ってみると、手を引き、背中を押し、支えてくれた家族や先生、友人、地域の方々のおかげでここまで成長することができました。心から感謝しています。本当にありがとうございます。これまでのどんな瞬間も、今の私を形成するための、大切にかけがえのない時間だと思います。

私は現在、山梨県の大学で勉強しています。県外での生活は、私にたくさんの気づきと学びを与えてくれます。たくさんの人に出会い、たくさんの価値観にふれることで、自分の考えが変わったり成長していったりするのを実感でき、充実した日々を送っています。

また、一人暮らしを始めて、家族の存在の大きさを改めて感じました。いつでも「おかえり」と迎えてくれることや、当たり前のようにやってくれていた料理、掃除、家事はどれもたくさんの時間と愛情をかけてくれていたのだと感じます。自分なりに日々の暮らしに丁寧に向き合っていきたいです。

私は大学で社会学を専攻しており、中でも社会的マイノリティに関して力を入れて勉強しています。社会の当たり前に疑いを持ち、すべての人が「幸福」を実現できる社会のあり方を考えています。学問の中の話だけではなく、これから私たちが生きていく社会は多様性に満ちあふれています。見たことも聞いたこともない文化や社会に、ここ牧之原でも突然出会うことがあるでしょう。自分の中に形成された枠組みの中になからといって、拒絶するのではなく、知ろうとする営みが大人として生きていくためには必要不可欠であると思っています。ここにいる多くの人が自分は「普通」の側にいる、思っているかもしれません。しかし、そうではなくマイノリティの中にもマジョリティの中にも多様性があり、自分もその多様性を構成する一員であるという意識を持つことで、ひとりひとりが尊重される社会になっていくと思います。

今日を境に、大人としての自覚が突然生まれるとは思っていません。多様な社会の構成員として、自分の言動に責任を持ちます。自分のやりたいことを追いかけられる環境に感謝を忘れず、自分にできることを見つけ、少しずつでも社会に貢献していきたいです。人との繋がりや築いた信頼関係は、自分を支え助けてくれるものです。社会で生きていく中で「自分だけが勝ち抜ければいい」と思うのではなく、他者に対して思いやりを持ちよりよい世界を切り拓いていきます。

豊かに広がる茶畑に穏やかな海、青空にたたずむ富士の峰、そしてあたたかな人の繋がりに恵まれた牧之原は私のふるさとであり、誇りです。20 歳を迎えるすべてのひとが、自分の信じる道で毎日幸せに生きていけるよう願っています。本日は本当にありがとうございます。

2025. 1. 11 西尾亜優美